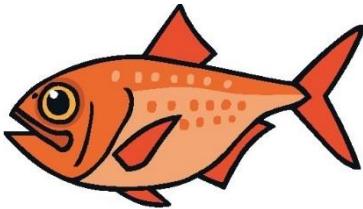


千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

キンメダイ



- 水深 200 ~ 800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄(釣り)により漁獲される。
- 満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後、4 歳で 27cm 430g、10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- 産卵期は 6 ~ 8 月。

資源評価

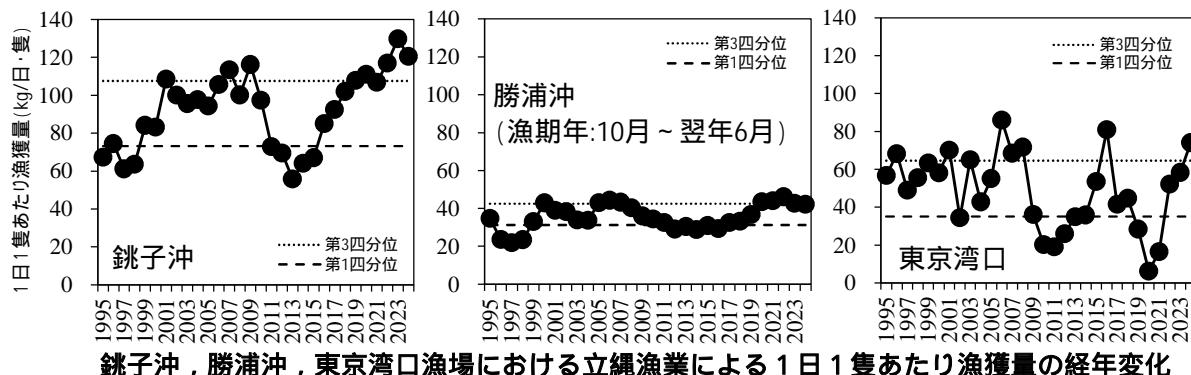
銚子沖		勝浦沖		東京湾口	
水準：高位	動向：横ばい	水準：中位	動向：横ばい	水準：高位	動向：増加
	➡	○	➡		➡

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から四分位数により評価した。

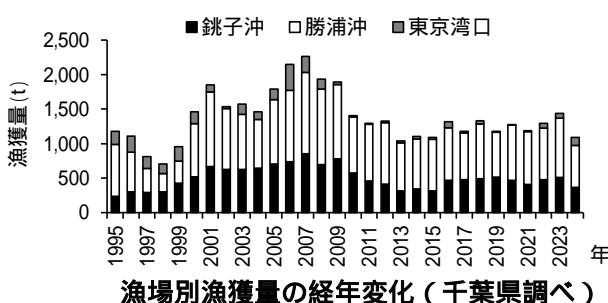
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、漁場ごとに 1995 年以降の立縄漁業の CPUE (1 日 1 隻当たりの漁獲量) で判断した。
- 2024 年の資源水準は、銚子沖は高位、勝浦沖は中位、東京湾口は高位水準にある。最近 5 年の動向は、銚子沖は横ばい、勝浦沖は横ばい、東京湾口では増加傾向にある。



漁獲量



- 千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には過去最高の 2,263t が漁獲された。2008 年以降は減少傾向が続き、2013 年は 1,039t となった。その後は緩やかに増加していたが、2024 年は 1,124t と前年比 77% であった。

資源管理の取組

- 漁場ごとに小型魚の再放流(銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下、東京湾口全長 22 cm 以下)、針数・縄数の制限、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

備考

- 勝浦沖及び東京湾口漁場では 2009 年以降、漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- 国が実施した資源評価では、関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2024 年の親魚量は MSY を実現する水準を上回り、動向は増加と判断されている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

タチウオ



- まき網, 小型機船底びき網, 定置網, 刺し網, はえ縄, 异縄など, 様々な漁業で漁獲される。
- 成長は非常に早く, 最大で 100cm 以上に成長する。
- 寿命は 8 歳程度と推定されている。

資源評価

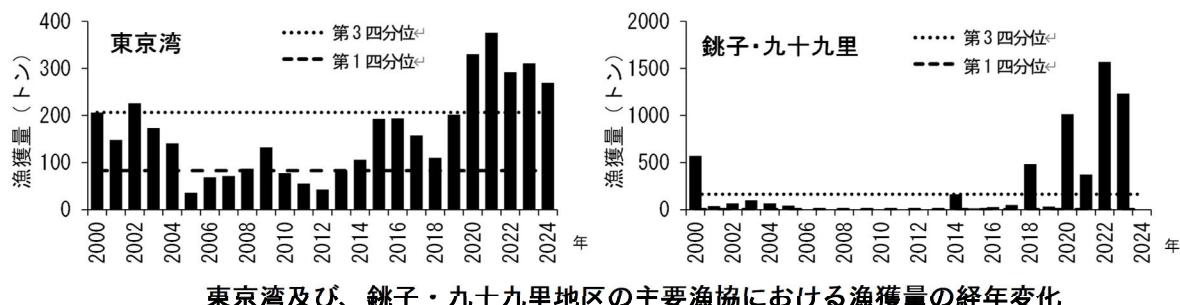
東京湾		銚子・九十九里	
水準：高位	動向：減少	水準：中位	動向：減少
	↓		↓

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。

資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、2000 年以降の漁獲量で判断した。
- 2024 の資源水準及び最近 5 年間の資源動向は、東京湾は高位、減少傾向にあり、銚子・九十九里地区では中位、減少傾向にある。



漁獲量



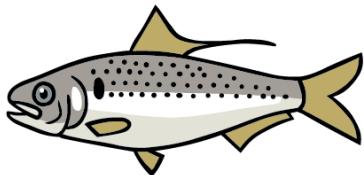
- 県内主要漁協におけるタチウオ漁獲量は、2000 年に約 800t を記録した後、減少傾向を示し、2005 ~ 2012 年には概ね 100t 以下で推移した。その後、2020 年に急激に増加し 2023 年までは 374 ~ 1,569t の範囲で高水準を維持していた。しかし、2024 年には銚子・九十九里地区での漁獲量が急減し、県全体の漁獲量は 278t まで低下した。

資源管理の取組

- 東京湾内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、タチウオ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

コノシロ(東京湾)



- ・漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・産卵期は4~7月で、産卵場は当初は東京湾の湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

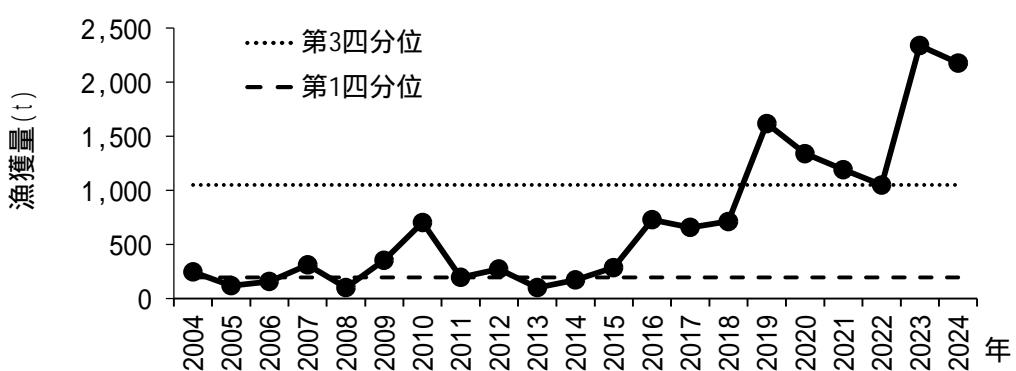
資源評価

水準：高位	動向：増加

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

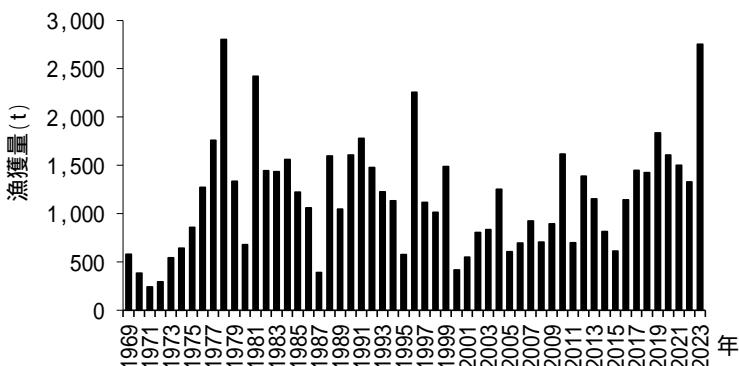
資源評価の指標値

- ・資源水準及び動向は、東京湾の主要漁協における中・小型まき網の漁獲量で判断した。
- ・2023年の資源水準は過去21年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。



東京湾の主要漁協における中・小型まき網の漁獲量の経年変化

漁獲量

漁獲量の経年変化
(千葉農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

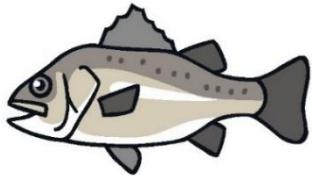
- ・漁獲量の年変動が大きく、1978年に2,805tを記録したが、その後、増減を繰り返し、2015年には615tとなった。
- ・その後、増加傾向となり、2023年の漁獲量は2,754tと1969年以降で2番目に多かった。

資源管理の取組

- ・東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網で春期又は冬期の休漁期間の設定など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

スズキ（東京湾）



- ・まき網、小型機船底びき網などで漁獲される。
- ・東京湾における産卵期は10月下旬～3月上旬で、産卵場は東京湾の湾口部にある。
- ・1983年から1998年まで種苗放流を実施していた。

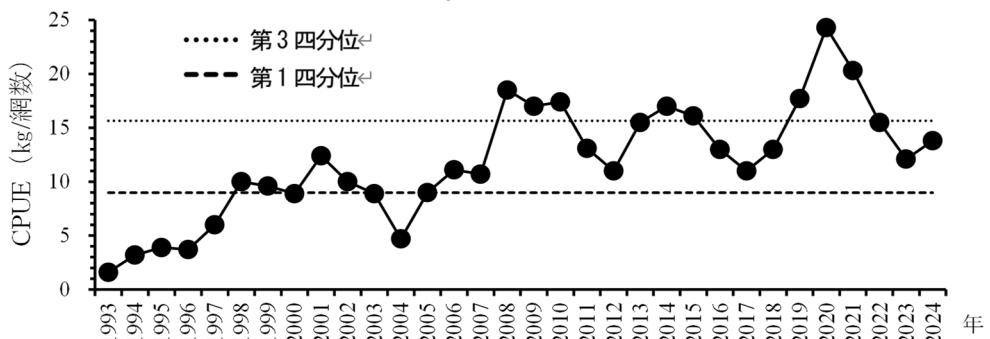
資源評価

水準：中位	動向：減少

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

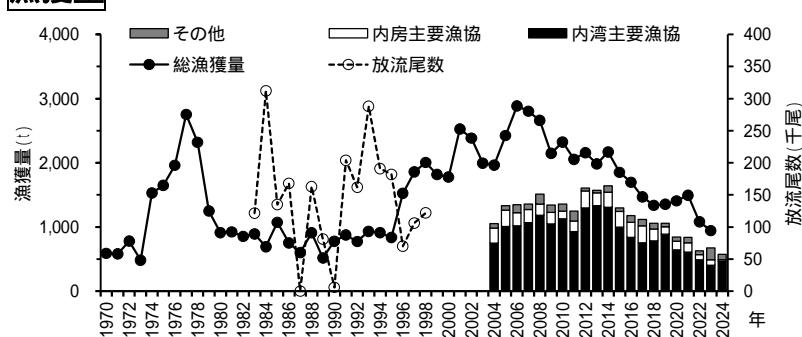
資源評価の指標値

- ・資源水準及び動向は小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。なお、標本漁船の隻数は経年で6～16隻の範囲で変化した。
- ・2024年の資源水準は最近32年間の中位。最近5年間の資源動向は減少傾向となった。



小型機船底びき網の標本漁船による1網当たり漁獲量(kg/網数: CPUE)の経年変化

漁獲量



・千葉県におけるすずき類の漁獲量は、1990年代後半に著しく増加し、2006年に過去最高の2,886tとなつた後、減少傾向にある。

すずき類漁獲量と放流尾数の経年変化

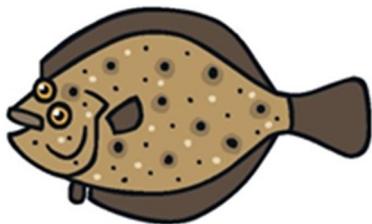
(千葉県農林水産統計年報(総漁獲量), 千葉県調べ)

資源管理の取組

- ・東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限、中・小型まき網で春又は冬期の休漁期間の設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

ヒラメ



- 砂浜域に生息し、銚子～富津の沿岸で底びき網、刺網、定置網などにより漁獲される。
- 1歳で全長35cm、2歳で45cm、体重1kgに成長し、3歳以降は雌雄差が拡大し、5歳では雄が60cm、体重2.3kgに対して雌では70cm、体重3.9kgに達する。
- 産卵期は3～6月。
- 1982年から種苗放流を実施。
- 漁獲量変動・移動特性等から、勝浦市以北は太平洋北部系群、鴨川市以西は太平洋中部海域に区分される。

資源評価

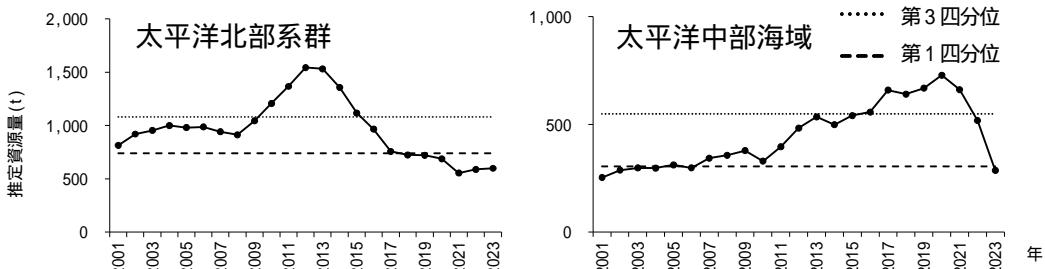
太平洋北部系群（勝浦市以北）		太平洋中部海域（鴨川市以西）	
水準：低位	動向：横ばい	水準：低位	動向：減少
△	➡	△	➡

注）資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（推定資源量）から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

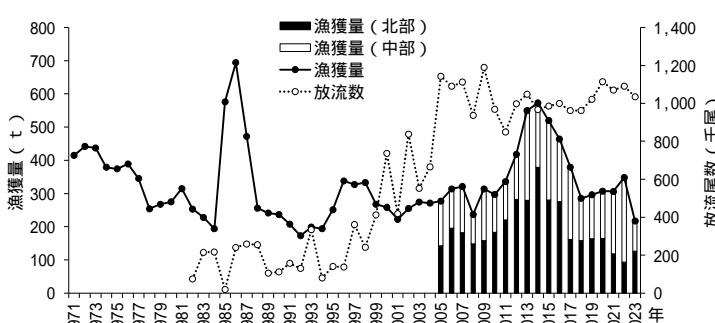
資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- 2023年の資源水準は太平洋北部系群で低位、太平洋中部海域で低位水準にある。最近5年間の資源動向は太平洋北部系群で横ばい、太平洋中部海域で減少となった。



千葉県における太平洋北部系群及び太平洋中部海域の推定資源量の経年

漁獲量



漁獲量と放流尾数の経年変化
(漁獲量は千葉県農林水産統計、漁業・養殖業生産統計、
系群別漁獲量は千葉県調べ)

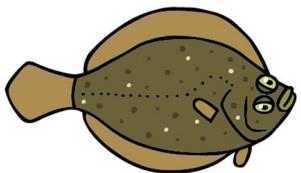
- 1971年以降、漁獲量が一時的に増加した1985～1987年及び2013～2015年を除き、300t前後で推移した。2023年は217t。

資源管理の取組

- 小型魚（全長30cm未満、底びき網は25cm未満）の再放流や漁具設置時間の制限など、漁業者の自主的な資源管理が行われている。また、関係機関が連携し、種苗放流を行っている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

マコガレイ



- 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺し網で漁獲される。
- 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- 1991年から種苗放流を実施。

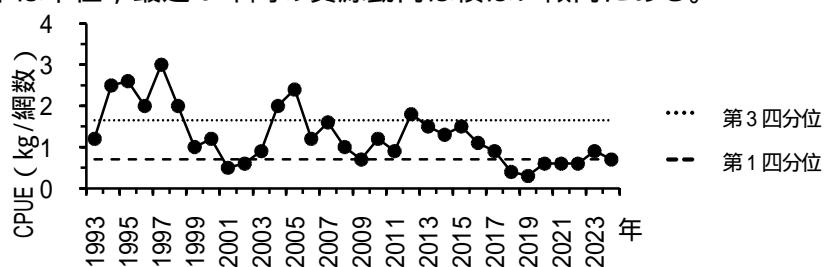
資源評価

水準：中位	動向：横ばい
	→

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

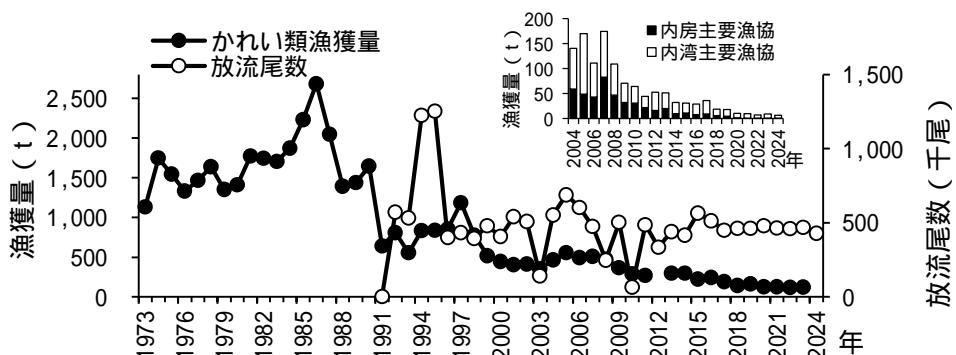
資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- 2023年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



小型機船底びき網の標本漁船による1網当たり漁獲量(kg/網数: CPUE)の経年変化

漁獲量

かれい類漁獲量、マコガレイ地区別漁獲量及び放流尾数の経年変化
(千葉県農林水産統計年報(かれい類漁獲量), 千葉県調べ)

- 東京湾におけるかれい類の漁獲量は、過去にはイシガレイ主体であったが、その後マコガレイ主体となった。
- マコガレイの漁獲量は長期的に減少傾向にあり、2008年には100t程度だったが、近年は10~20t程度で低迷している。

資源管理の取組

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限、稚魚や産卵親魚の保護のための禁漁区設定、県との稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県が種苗放流を行っている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

マダイ



- 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺し網、定置網、釣りなどにより漁獲される。
- 尾叉長は1歳で16cm、2歳で24cm、3歳で31cmとなり、体重は4歳で1kgを上回り、6歳で2kgを超える。
- 産卵期は3～6月。
- 1982年から種苗放流を実施。

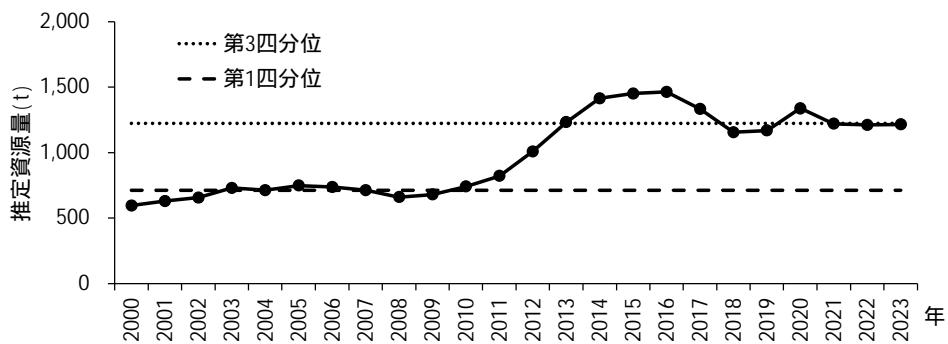
資源評価

水準：中位	動向：横ばい

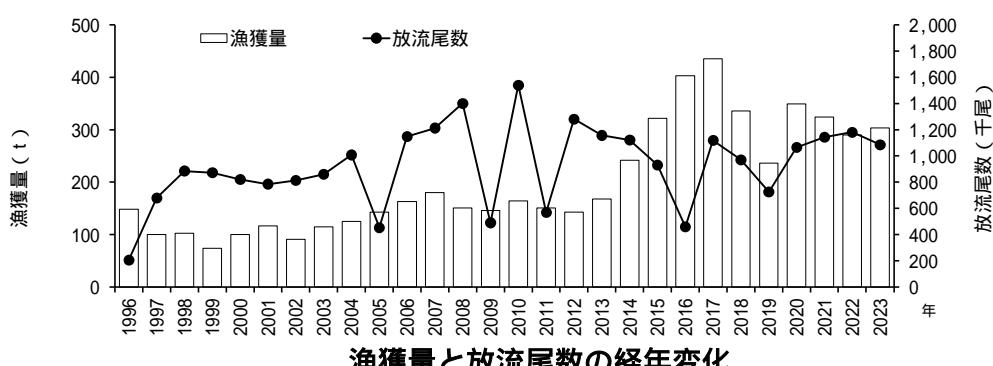
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(推定資源量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- 2023年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向となった。



漁獲量



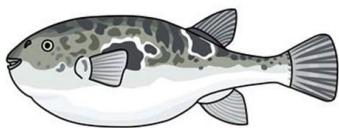
- 1996年以降100～200トン前後で推移し、2014年以降は増加に転じ、2017年は過去最高の435tが漁獲された。
- 2023年は303t。

資源管理の取組

- 小型魚(全長20cm以下)の再放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- 漁業者と関係機関が連携し、種苗放流を実施している。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

トラフグ



- はえ縄、定置網、小型機船底びき網、まき網などで漁獲される。
- 1歳で全長26cm(0.4kg)、2歳で40cm(1.4kg)、3歳で48cm(2.9kg)に成長し、寿命は10年程度と考えられている。
- 産卵期は4~5月で、成熟年齢は雄で2歳、雌で3歳。

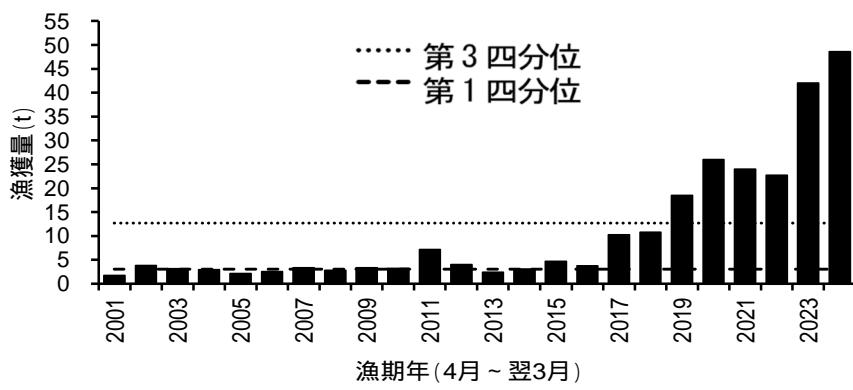
資源評価

水準：高位	動向：増加
	↑

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、漁獲量の推移から判断した。
- 2024年の資源水準は高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



県内主要漁協における漁獲量の経年変化
(千葉県調べ：トラフグ銘柄を有する主要12漁協)

漁獲量

- 県内主要漁協におけるトラフグ漁獲量は2001~2016年漁期は約2~7tで推移していたが、2017年漁期に10.2tに急増し、その後も増加傾向を示し、2024年漁期は48.6tであった。

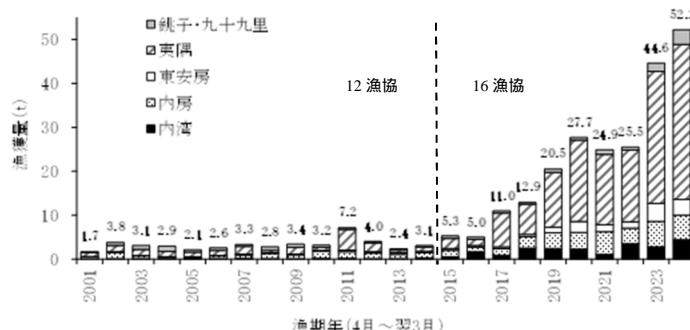
資源管理の取組

- はえ縄では操業期間の制限など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- 県では、放流種苗の移動・分散及び放流効果を把握するため、2015~2019、2022、2024年に東京湾において、2020、2021、2023年に外房において標識放流試験を行っている。

備考

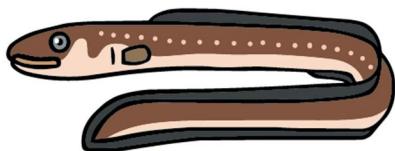
- 現在、国は日本海・東シナ海・瀬戸内海系群(21府県)、伊勢・三河湾系群(三重~静岡)の資源評価を行っている。この2系群と千葉県沿岸域に分布するトラフグとの関連を明らかにするため、水研機構と連携して調査を進めている。

(参考) 地域別漁獲量の経年変化
(千葉県調べ)



千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

マアナゴ



- 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、はえ縄で漁獲される。
- 産卵場は、沖ノ鳥島南方の九州 - パラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれぞれ）が日本沿岸に来遊する。

資源評価

東京湾		銚子・九十九里	
水準：低位	動向：不明()	水準：中位	動向：減少
	-		➡

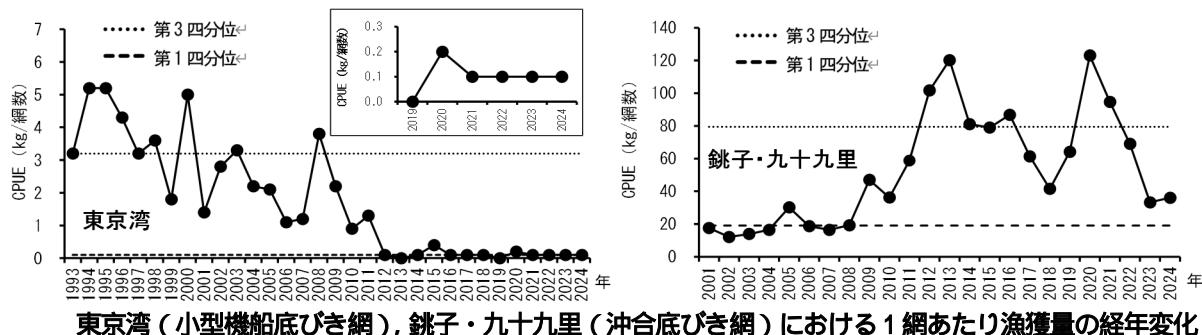
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

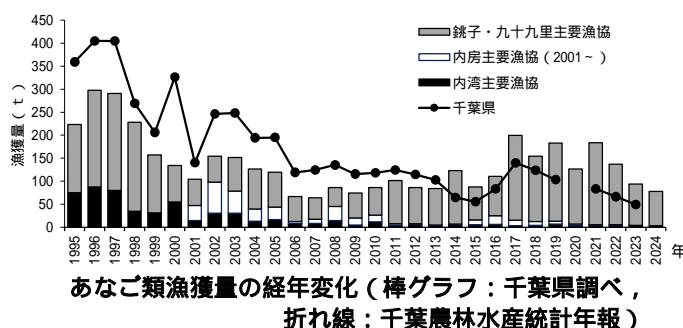
近年の資源水準は低水準であり、現在、集計対象の標本漁船ではマアナゴを目的とした操業がほとんど行われていないことから、最近5年間の1網当たり漁獲量の変化は資源動向を的確に表していない可能性があり、不明とした。

資源評価の指標

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網（東京湾）又は沖合底びき網（銚子・九十九里）の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。なお、標本漁船の隻数は年によって変わり、東京湾で6~12隻、銚子・九十九里で1又は2隻で推移した。
- 2024年の資源水準、最近5年間の資源動向は、東京湾では低位、不明（）、銚子・九十九里では中位、減少傾向にある。



漁獲量



- 千葉県におけるあなご類の漁獲量は、1998年以降、減少傾向で、近年東京湾では10t以下の低水準である。一方、銚子・九十九里では2021年以降減少傾向であり、2024年は75tとなった。

資源管理の取組

- 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、小型機船底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護や沖合底びき網で操業の制限など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

サヨリ（東京湾）



- ・ 主に機船船びき網(2そうびき)により冬～春に漁獲される。
- ・ 寿命は約2年で、最大で全長40cm程度に成長する。
- ・ 産卵期は春季で、着生している海藻類や流れ藻に産卵する。

資源評価

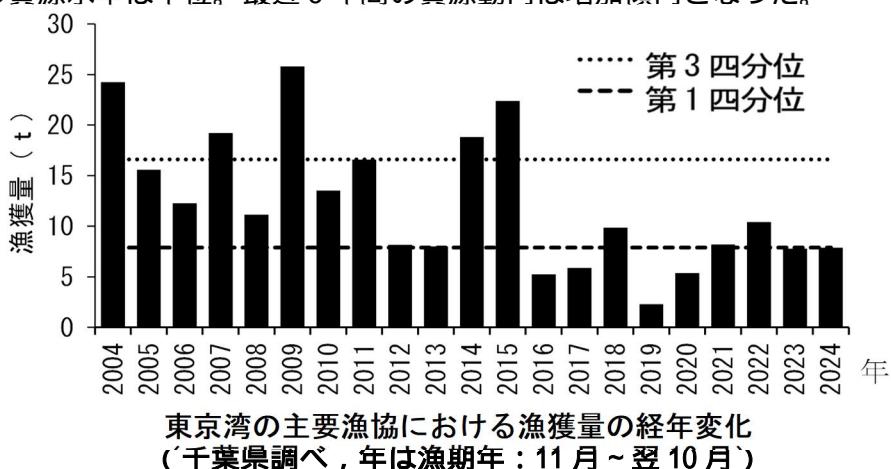
水準：中位	動向：増加

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾の主要漁協における2004年以降の漁獲量で判断した。
- ・ 2024年の資源水準は中位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



漁獲量

- ・ 東京湾の主要漁協におけるサヨリ漁獲量は年変動が大きく、2009年に26tを記録したが、その後、増減を繰り返し、2016年以降は低水準で推移した。2024年は8tとなった。

資源管理の取組

- ・ 機船船びき網漁業(さより船びき網漁業)の許可の制限措置及び条件により、操業期間、漁具の制限など、公的な資源管理が行われている。

備考

- ・ 今後データを蓄積して資源水準の指標としてCPUEを導入するか検討する必要がある。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

イセエビ



- 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺し網により漁獲される。
- プエルルスに変態し、沿岸域に着底後2歳で制限体長の13cm(80g前後)に達する。
- 産卵期は5~9月。

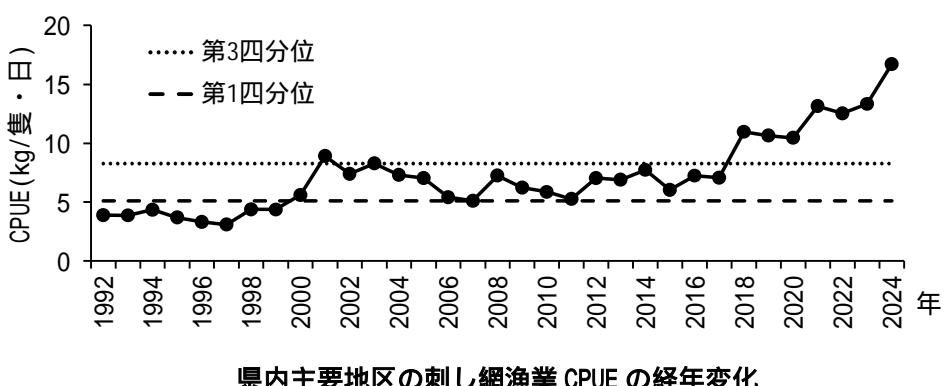
資源評価

水準：高位	動向：増加

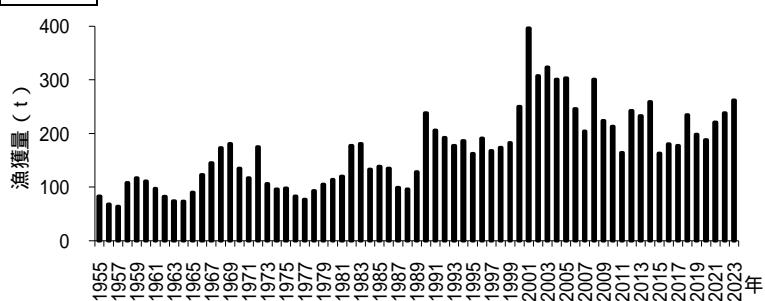
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は県内主要地区の刺し網漁業CPUEで判断した。
- 2024年の資源水準は最近32年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



漁獲量



- 1955年以降緩やかな増加傾向にあり、2001年は過去最高の396tとなった。
- 2023年は262t。

漁獲量の経年変化
(千葉農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

資源管理の取組

- 千葉県漁業調整規則で全長制限(13cm以下)のものは採捕してはならないと禁漁期間(6/1~7/31)が定められている。
- 漁具(刺し網の使用反数)の制限、操業時間の制限、小型個体の再放流等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

チョウセンハマグリ



- 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による貝けた網）により漁獲される。
- 1歳で殻長約1cm、2歳で3~4cm(7~16g)に成長し、3歳で5~6cm(31~54g)となり、寿命は10年以上で10cm(250g)を超えるものも漁獲される。
- 産卵期は6月下旬~9月。

資源評価

水準：高位	動向：横ばい
	➡

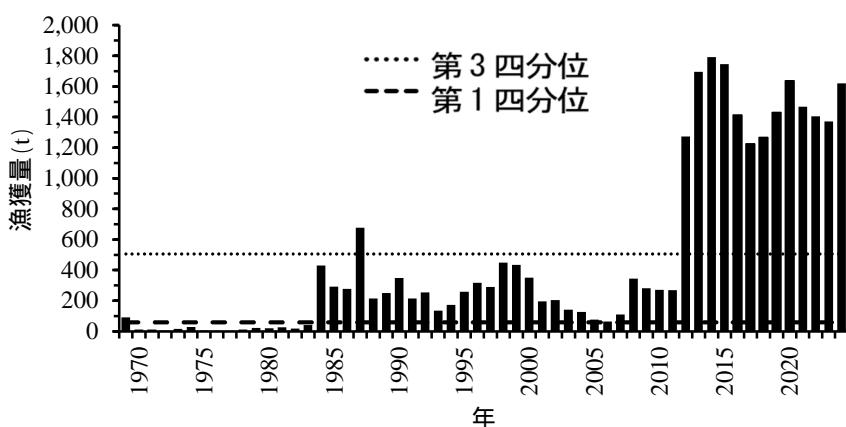
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）

から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- 2024年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



漁獲量の経年変化
(2006年まで千葉農林水産統計年報、2007年から千葉県調べ)

漁獲量

- 1969~1983年は低位で推移していたが、1984~2011年は70~660tで増減を繰り返し、2012年に急増して以降、1,000t以上の漁獲が続いている。
- 2012年は、2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が急増したと考えられる。
- 2009年以降に生まれた年級群の漁獲への加入も継続している。
- 2024年は1,618t。

資源管理の取組

- 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期・資源保護区域の設定、小型貝の沖出し放流など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

備考

- 県は毎年秋に実施している稚貝調査により、発生状況には非常に大きな年変動のあることがわかっている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

クロアワビ



- 沿岸の岩礁域（メガイアワビより浅い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- 4~5歳で制限殻長の12cm(230g前後)に達する。
- アワビ類の産卵期は10月~翌年1月。
- 1968年から種苗放流が行われている。
- 一般漁場における2024年の放流貝の混入率は、0~25%。

千倉2地区、鴨川1地区。

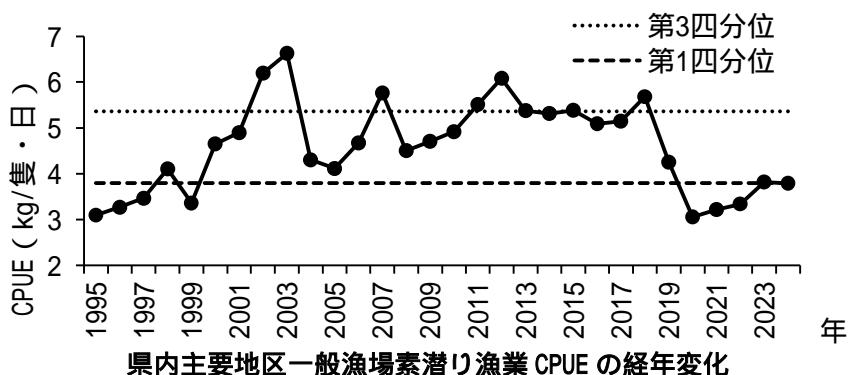
資源評価

水準：低位	動向：増加
	↑

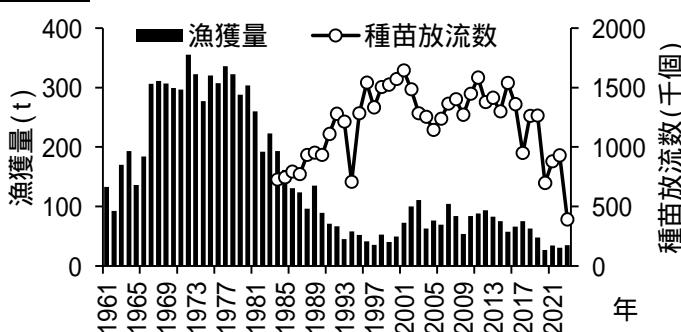
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は県内主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- 2024年の資源水準は最近30年間の低位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



漁獲量



- 過去最高は1972年の355t、過去最低は2020年の27t。
- 2023年は35t。

(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数は栽培漁業種苗生産入手・放流実績(全国)) 1968~1983は不明

資源管理の取組

- 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12cm以下)のものは採捕してはならないと禁漁期間(9/16~3/31)が定められている。
- 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び禁漁区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

メガイアワビ



- 沿岸の岩礁域（クロアワビより深い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- 4~5歳で制限殻長の12cm(210g前後)に達する。
- アワビ類の産卵期は10月~翌年1月。
- 1968年から種苗放流が行われている。
- 一般漁場における2024年の放流貝の混入率は、0~3%。千倉2地区、鴨川1地区。

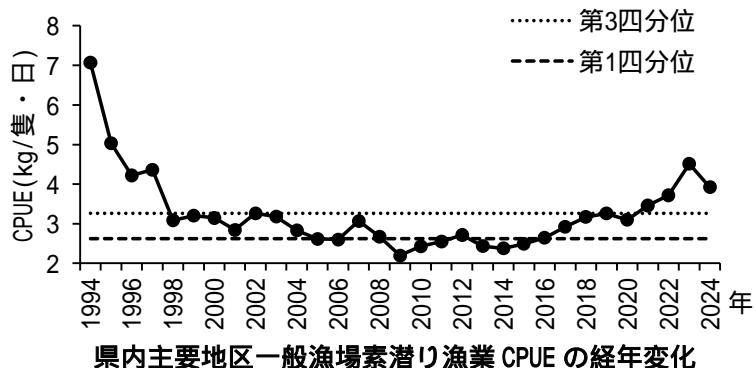
資源評価

水準：高位	動向：増加
	↑

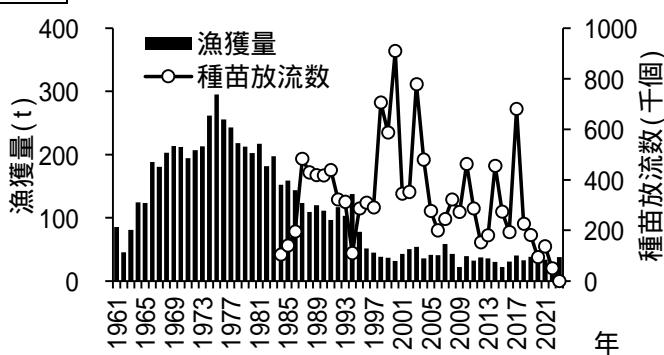
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は県内主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- 2024年の資源水準は最近30年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



漁獲量



(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数は栽培漁業種苗生産入手・放流実績(全国)) 1968~1983は不明

- 過去最高は1975年の295t、過去最低は2009年の22t。
- 2023年は38t。

資源管理の取組

- 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12cm以下)のものは採捕してはならないと禁漁期間(9/16~3/31)が定められている。
- 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び禁漁区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

サザエ



- 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺し網、見突き、素潜りにより漁獲される。
- 3～4歳で制限殻高の7cm(90g前後)に達する。
- 産卵期は5～9月。

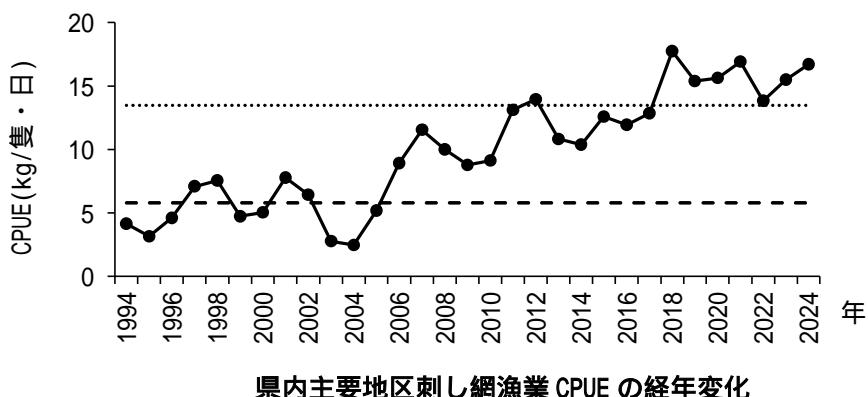
資源評価

水準：高位	動向：横ばい
	→

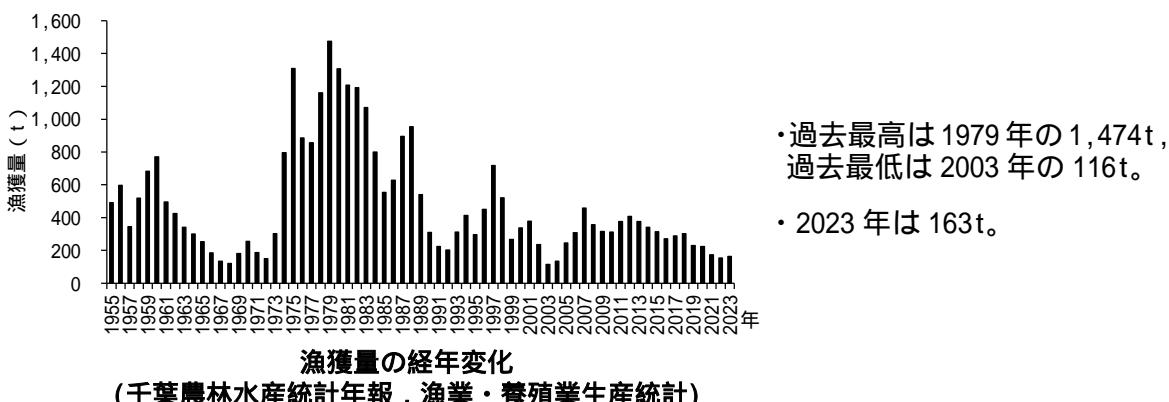
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は県内主要地区の刺し網漁業CPUEで判断した。
- 2024年の資源水準は最近31年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



漁獲量



資源管理の取組

- 千葉県漁業調整規則で殻高制限(7cm以下)のものは採捕してはならないと禁漁期間(6/1～6/30)が定められている。
- 操業期間の制限など、漁業者による自主的な管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

ダンベイキサゴ



- 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による貝けた網）により漁獲される。
- 1歳で殻径約1.2cm、2歳で2.3cmに成長し、3歳で3.0cmとなり、寿命は5年以上と考えられ、3.5cmを超えるものも漁獲される。
- 産卵期は4月～6月、11月末～翌年1月。

資源評価

水準：中位	動向：減少

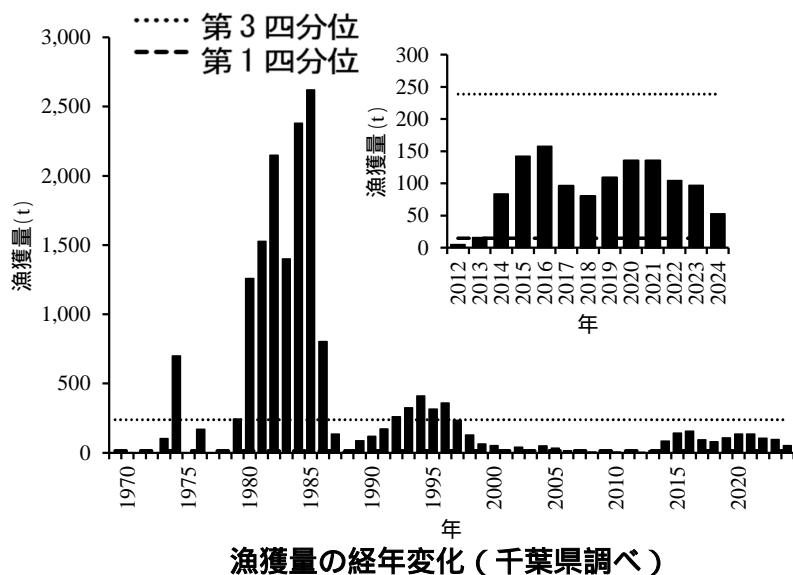
注）資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）

から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- 2024年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は減少となった。



漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

漁獲量

- 1970年代は、1974年を除き低位から中位で推移したが、1980年代には1,000t以上に増加し、1986年まで高位で推移した。
- 1988年には10tまで減少したが、再び増加し、1994年には400t以上の漁獲があった。
- その後再び減少がみられ、2012年まで低位で推移したが、2014年以降増加し中位を維持している。2024年は前年から減少し53tの漁獲であった。

資源管理の取組

- 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期・資源保護区域の設定、小型貝の沖出し放流など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

マダコ



- 漁獲の多くは銚子・九十九里～外房で、たこつぼ、沖合底びき網などで漁獲される。
- 広く回遊する群と地先に生息する群が存在し、広く回遊する群が漁獲量の大半を占める。
- 漁獲盛期は12月～4月。

資源評価

水準：中位	動向：横ばい

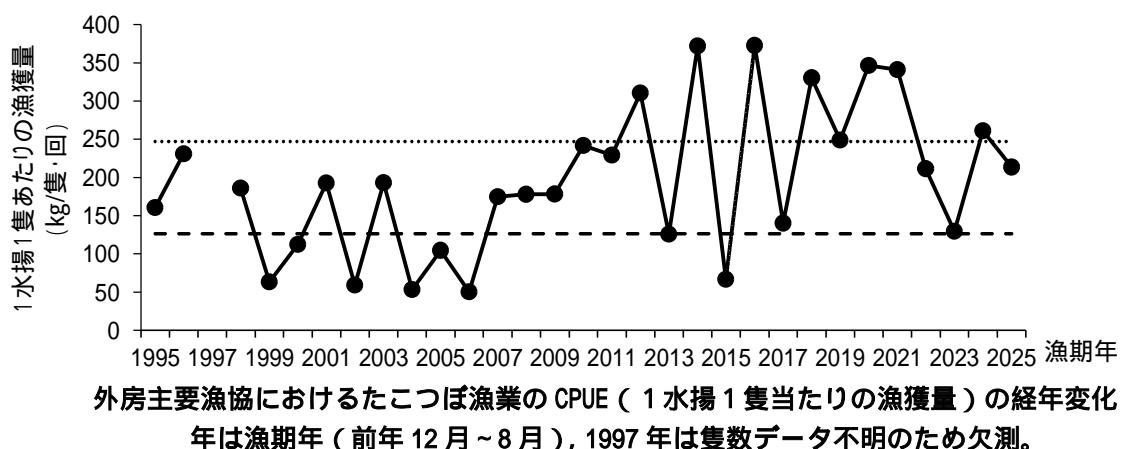
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)

から四分位数により評価した。

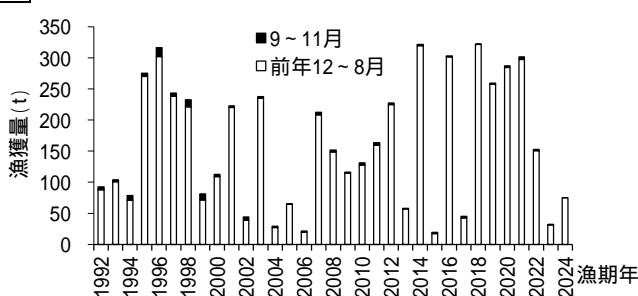
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、外房主要漁協におけるたこつぼ漁業の1995年以降のCPUE(1水揚1隻当たりの漁獲量)で判断した。
- 変動が激しいが、2025年の資源水準は過去30年間で中位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



漁獲量



- 千葉県全体の漁獲量は年ごとに大きく変動している。
- 漁獲量は資源量の他、海況による回遊経路や時期の変動、茨城県以北の漁獲量等に影響を受けて変動すると考えられる。

資源管理の取組

- たこつぼ漁業の漁業許可方針で、海域ごとに操業隻数・期間が定められている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和7年度資源評価

コウイカ（東京湾）



- 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

資源評価

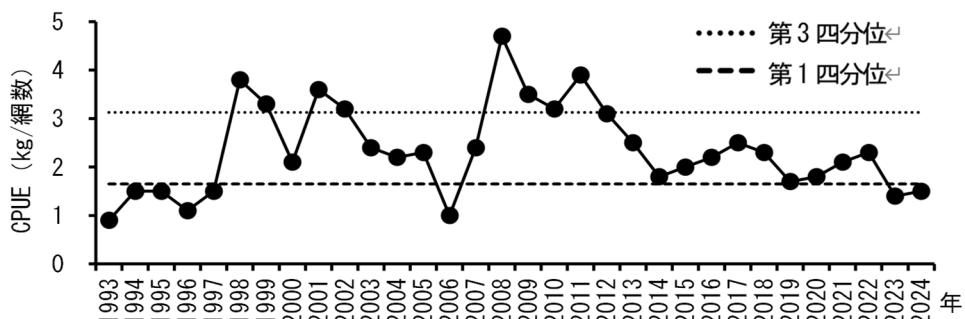
水準：低位	動向：減少

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。

資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

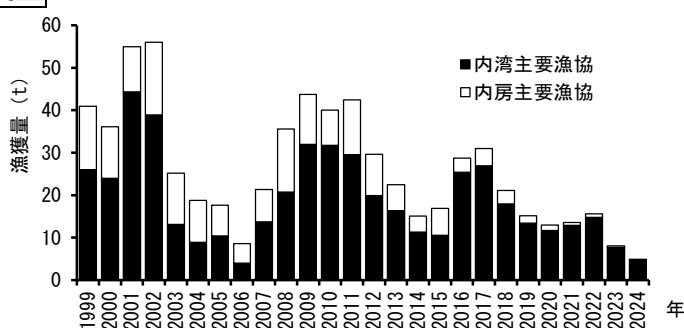
資源評価の指標値

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。なお、標本漁船の隻数は経年で3～12隻の範囲で変化した。
- 2024年の資源水準は最近32年間の低位、最近5年間の資源動向は減少傾向となった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量(CPUE: kg/網数)の経年変化

漁獲量



東京湾の主要漁協の漁獲量の経年変化(千葉県調べ)

- 東京湾の主要漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31tとなった後、減少傾向にあり、2024年には5tを記録した。

資源管理の取組

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1994年から漁業者による産卵床の設置が行われている。